

# 事務職員部会

## I. 研究の概要

1. 研究主題 自主性と創造性にあふれる学校事務をめざして  
～日常実践に根ざした事務職員の職務確立～

### 2. 研究主題設定の理由

1. 職務の確立のため自主性と創造性を重視した取組が求められている。
2. 子どもの生活の場である、よりよい学校づくりが基本である。

### 3. 研究の経過

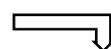
任務論・本務論



財政財務活動



情報活動



よりよい学校づくりにおいて、事務職員の果たせる役割の具体化をはかる。

### 4. 研究推進の基本姿勢

「子ども」の生活の場としてのよりよい学校づくりに向け、事務職員に期待される願いや思いの把握と検証に努めながら、「学校間連携」を通して課題解決を図り、これまで積み上げてきた研究と実践を基盤とした管内の組織的研究を進める。

また近年学校事務と事務職員をめぐるのは、学校教育法（つかさどる）や地教行法改正（共同事務室）、働き方改革関連施策による事務職員への「期待」など、大きな変化があった。この変化で学校事務を今後どのように推進していくのか自主性と創造性を発揮して研究を進める。

### 5. 研究内容

今年度の研究は、「事務職員は事務をつかさどる」ということを、学校運営に参画するという観点で捉えていきたいと考えた。

「つかさどる」ということが、学校教育法で定められることは、私たちが望んでいたことでもあり、そこには、私たちの夢が実現されたという思いもあり、また事務職員に期待されているところも見えてくる。しかし、ここでの「期待」とは、これまで私たちが取り組んできたものとは、趣旨や方向性が必ずしも一致しているとは言えない状況である。また、学校現場の多忙化により、教員が事務職員に求めるものも、「学校運営への参画」という言葉とは裏腹に、私たちが力を入れたい業務とは異なっている実態も見受けられる。このような認識のずれが、未整理のまま制度変更の実体化に進んでいくと、私たちの研究・実践に大きな影響が及ぶことも考えられる。

このように、学校事務職員を取り巻く環境は今後も大きく変わっていくことが予想されることから、「保護者負担の公費化」は継続しながらも、「つかさどる」や「共同学校事務室」に係る課題については、早急に組織的に取り組むことが必要であると考えます。

#### (1) 学校間連携による財政財務活動の取組

##### 【① 蓄積・発信の定着から連携へ】

可視化した資料（データ）を継承し、さらなる蓄積から発信＝「見せる」へと進展させる取組を進める。可視化された資料（データ）は教育委員会や行政機関、また様々な場面において情報発信を行うことで可視化された資料（データ）が生きたものとなり、広がりをもってくると考えられる。この情報発信が、管内的な取組となり、行政機関との連携につながるように結びつけていきたい。

## 【② マネジメントサイクルの見つめ直し（問い返し）】

「チーム学校」における学校マネジメントの見直しや、「事務をつかさどる」への変更から、事務職員のマネジメント能力の向上が求められている。これまでの、北海道の学校事務職員として取り組んできたマネジメントサイクル（PDCA）を見つめ直し（問い返し）、保護者負担の公費化の取組を進めたいと考えます。

## 【③ 保護者負担の公費化の取組を確実にするための方策】

公費化を推進する方策としては、「①各校の取組において実現可能なもの」と「②学校間連携を通して実現可能なもの」が挙げられる。①では、経験や任用条件に応じて、「できるところから取組める」公費化の実践が必要である。教材選定時や会計担当者会議時に取組の説明を行ったり、職員会議の場で教員と十分に論議を重ねたりしながら、継続していかなければならない。また、学校配分予算や徴収金、補助金などとリンクさせながら、どのように執行していくのか、保護者負担の公費化（徴収金の減額）につながるか考察していかなければならない。②では、単独では難しい取組も、学校間連携を通して教育委員会とともに取り組むことにより、公費化財源の確保を図ることが可能となります。「配分調整」や「組み換え」など、効果的な予算執行に向けた取組や調査研究や実践による実績があるので、これらは継続していかなければならない。また、教育予算要望などで予算増額のために、連携による調査資料などを活用し要望していくことが重要であると考えます。

## (2) 学校間連携を活用した職務の捉え直し

私たち学校事務職員を取り巻く状況は、ここ数年大きな変化があったことから、法改正による「つかさどる」や「共同学校事務室」などに係る課題を、早急に組織的に取り組む必要があることから研究内容とした。

法改正による「つかさどる」や「共同学校事務室」は、「期待される事務職員像」がスタート地点となっているが、ここでの「期待」とは、これまで主として文部科学省から示された多くの資料や全国の一部の研究実践によると、私たちが今まで取り組んできたものとは、趣旨や方向性が必ずしも一致しているとは言えない状況である。また、学校現場の多忙化により、教員が事務職員に求めるものも、「学校運営への参画」という言葉とは裏腹に、私たちが力を入れたい業務とは、異なっている実態も見受けられる。したがって、このような認識のずれが、未整理のまま制度変更の実体化に進んでいくと、私たちの研究・実践に大きな影響が及ぶことが考えられる。

昨年度からの新しい取組は、現在自分たちが行っている仕事について、見つめ直すことから始めることとした。そのとりかかりとして、「学校事務に関する意識調査」を行った。各個人が持つイメージを聞き取ることで、職務を見つめ直すことができた。経験年数によってイメージに差があり、課題意識や共通理解が十分でない実態が見て取ることができた。そのことから、課題共有の手立てとして、現在、またはこれから「つかさどっていくことができる」（学校運営に参画できる）と思われることを考えてみる必要があると考えた。

## II. 実践研究の経過と成果

### 1. 実践研究の経過

- 4月12日 第1回推進委員研修会
- 4月13日 石教研専門部会第一次研究協議会
- 7月1日 第2・第3回推進委員研修会、合同研修会…今年度の研究推進について
- 8月24日 第4回推進委員研修会 …書面送付
- 10月1日 第5回推進委員研修会 …第二次研究協議会市町村レポート帳合、管内事務職員研修会
- 10月15日 石教研専門部会第二次研究協議会

- 1 1月18日 石狩管内公立小中学校事務職員研修会
- 1 2月 3日 第6回推進委員研修会…第二次研究協議会総括、管内事務職員研修会総括
- 3月 3日 第7回推進委員研修会…第二次研究協議会後の各市町村研究交流、次年度研究計画について

## 2. 専門部会第二次研究協議会

分散会討議・・・財政財務活動を通じたマネジメントから学校運営への参画へ

討議の柱1 保護者負担の公費化に向けて各市町村では、どのような組織的実践に取り組んできたか

**◆可視化し蓄積された（データ）を教職員向け事務だよりやホームページ等を活用して見せる・発信する取組について**

### 【石 狩】

- ・部会の開催が十分にできていない中、どこの市町村も色々な調査を行っている。今後は、これらの調査をどのように進め、具体化していくかが大切だと思う。

### 【北広島】

- ・旅行的行事の調査は、調査のみにとどまっていて、交流等は行っていない。また、用紙類の公費化については、全市で確認しているが、できる範囲でとなっている。

### 【千 歳】

- ・公費負担のリストを校内の運営計画に入れている。普段の雑談のなかでも、公費化について先生方にアピールしている。それによって物品の購入について相談が増えた。【千歳市資料7】の公費化リストを作成することによって、市内の状況を知ることができ、自校も次はこれを公費化しようという意欲につながった。

**◆「保護者負担の公費化」を推進する方策として各校の取組において実現可能なものと学校間連携を通して実現可能なものについて**

### 【石 狩】

- ・職員会議資料をペーパーレス化した。1つ1つ確認しながら、公費化に取り組んでいる。
- ・高速プリンター1台で、すべて賄っている。定額制プリンターからの入れ替えだが、経費は安く抑えられるようになった。予算を浮かすには、用紙代の節約が大事であるし、公費化につながる。
- ・石狩も教育委員会連絡は、メールで来ている。用紙代の無駄を省くため、データを共有フォルダーに保存して見てもらうようにしている。

### 【当 新】

- ・当新に来て教材費が高く、費目も多いと感じ、①生徒手帳の廃止、②指導内容の改定に伴い教材費の減額（ICTとのからみでワーク類の減）、③修学旅行等の残金があれば保護者へ返金を行った。
- ・事務だよりを利用し、ペーパーレス化をアピールしている。当別町は公費化する物品の固定化をやめて、各校の現状を交流している。ペーパーレス化は、校内研究のSDGsに絡めて推進している。職員への提案の仕方はとても大切。工夫あるのみ。
- ・教育委員会の連絡文書は、外部メールで来るので、いちど文書を印刷しないと情報が回らないシステムになっている。事務職員が印刷している学校は、ある程度印刷する内容を見極めて行っているが、管理職が

印刷している学校は、鑑文からすべて印刷しているところもあるので、用紙代に無駄が出ている。サイボーズのように全員が閲覧できるシステムであればいいのだが。

- ・(教材) 選定後に公費化できるものはないか、担当者と確認し合っている。

#### 【江 別】

- ・令和2年度に大幅な削減があり、少し不自由に感じる部分はある。3年度の削減はなかった。今後も削られると厳しい面は出てくるかもしれない。
- ・教材に関わっての業務が、初めて事務にまわってきた状況である。学校によって、関わり方がそれぞれであると感じている。
- ・ペーパーレス化したいが、難しいところ。普段の会話から、意識付けを試みている。
- ・職員会議のやり方をPDF化し、ペーパーレスで行い、用紙代の節約をしている。書き込みが出来ないとか意見があるが、今はPDFでも書き込みが出来るようになっている。
- ・江別は、小規模校5校を除いた学校に、高速プリンターを令和4年4月導入に向けて取り組んでいる。各学校の使用枚数は、事前に教育委員会が調査、把握し、どのメーカーを導入するか検討中である。
- ・職員会議や職員間の連絡事項のペーパーレス化は、管理職や教員の意識のもち方や事務職員の認識次第でクリアできるのではないかと。

#### 【北広島】

- ・予算が十分だったときには、公費化は簡単にできた。現在、減らされている状態で継続できるかが難しい。
- ・(予算が減額となった中) 日報等のペーパーレス化を推進し、保護者負担軽減は継続できている。
- ・連絡事項は、C4thとChromebookの活用で用紙の節約をしている。サイボーズの活用も含め考えている。

#### 【恵 庭】

- ・上がってきたものの中から、できそうなものは参考にさせてもらっている。
- ・通知表ファイル100円を保護者負担させるという先生に対し職会で、反対意見が出て公費で買うことにした。
- ・大きな削減があったが、市に寄付があってそれによって補填されて同額程度になったと説明を受けている。

#### 【千 歳】

- ・千歳市は、比較的予算に余裕がある。それに加えて、今年度から市内一斉に導入された高速プリンターの効果で、今まで印刷機にかかっていた予算を他に回すことができています。人事異動による公費化リストの引継ぎが課題。年度が変わると公費化しているものを教材費で購入している現状があったなど。
- ・教材費が増額したところは、理由を聞いている。教材や紙、消耗品を整理して働きやすく利用しやすい状態にすることで、間接的に保護者負担軽減になると考える。
- ・教員により選定教材が異なるので、市町村ごとに同じ教材にして入札をかけると安くなると言われたが、実際の所難しい。
- ・(高速プリンター導入で削減された予算によって) 紙類は、全て公費化に成功した。また、キャリアパスポートのファイルも公費化できたので、保護者負担軽減につながった。
- ・キャリアパスポートファイルについては、高速プリンター導入による成果の可能性はある。しかし、他の項目については、今までの取組の成果が大きいと思われる。高速プリンター導入の成果は、来年以降に表れると考えている。

◆財政財務活動が何故「つかさどっている」のか根拠は何となるのか。また財政財務活動以外で「つかさどる」となるものはどのようなものがあるのか交流

【石 狩】

- ・単年度ではなく、次年度につながる、つなげていく取組。事務職員として職員にうったえかけていくこと。
- ・専門性をもったうえでPTA活動や教育活動に参画していくこと。
- ・レポート石狩10を参照 今年の夏季研修で「つかさどる」のイメージを共有するために、年齢層別の方々に簡単なレポート発表をしてもらった。具体的な業務イメージを深めることができたのではないかな。

【当 新】

- ・事務職員の提案を職員に伝える、そして子どもたちにつなげる。法的根拠等（専門性）の伝え方の工夫。事務をこなすだけではない、職員を巻き込んでいくこと。
- ・レポート9.10を参照 財政面や情報面や発信・説明をするという面で、担当者や管理職に対して意見や助言等をする事が学校に参画をするといえるのではないだろうか。※事務職員の職務の範疇で可能な限りという前提

【恵 庭】

- ・マニュアルがある→従事する、マニュアルがない→つかさどる 北海道の事務職員は、長年つかさどってきたのではないかな。今までやってきたことを整理していけたらいい。
- ・石事協の意識調査を受けて、恵庭独自のアンケートを行ってみた。集まったの議論ができなかったため、集計結果の交流のみになっている。
- ・コロナ禍で部会ができなかったが、レポートにある資料を基に個々学習を行い、アンケート集約を行った。（レポート参照）

【千 歳】

- ・学校によって違ってくる。「つかさどる」→自ら主体的にかかわる→管理職と対等の立場 勤務時間の中でできる業務内容を明確にし、経験年数等を考慮してプラスした形で業務を重ねていく、そうでなければ「つかさどる」ではなく「つかわれる」状況になる。

【石 狩】

- ・前任校（石狩）での話になる。コロナ予算でトイレの洋式化の計画をつくった。学年との打ち合わせ、業者とのやり取り等を行った。
- ・北広島で学習したSさんの資料や話を聞かせてほしい。石狩は、数人にピックアップし、お金以外で何をつかさどっていることをレポートしてもらった。

【当 新】

- ・安全点検日を設定し、事務も関わっている。備品等の確認をしている。

【千 歳】

- ・今年から教科チーフを決めてもらい、備品、消耗品の購入について希望を取りまとめてもらうようにし「つかさどる」になるかどうかわからないけど、廃棄する際もチーフを通して話すことができる。  
教材の希望調査→教科＞学年＞個人
- ・グラウンドの除草について、薬品等の使用ができないため、土をえぐる機械を購入して、施設業務員と連携して対応している。

### Ⅲ. 理論・実技研修会

#### ○ 石狩管内公立小中学校事務職員研修会

日 時：令和3年11月18日（木）

会 場：江別市（江別市民会館） 参加者：56名

#### <研修の内容>

##### （1）研修1： 講演

講師として、全道協議会職務検討委員会の委員である斎藤大輔氏（石狩市立花川南中学校）を迎え、「『事務をつかさどる』と北海道の学校事務」について、講演をしていただいた。

2017年に学校教育法で、学校事務職員は「事務をつかさどる」に改正されてから、私たちは学校現場で何を求められ、どう考えるべきなのかを、同じ事務職員目線で聞くことができる貴重な機会となった。講演の中では、委員として携わってきた「職務検討委員会答申」の解説と、「つかさどる」事務職員としての自らの考えについて語られた。

事務職員の仕事の軸をしっかり持ち、他職種に対して意思表示することと、専門職として「財政財務活動」を運営計画に明示することの必要性を強調されていた。「つかさどる」は、これまで私たちが行ってきた仕事の延長線上にあることを実感できた、示唆に富む講演となった。

##### （2）研修2： パネルディスカッション

「コロナ禍における事務職員の役割、そして、『つかさどる』を考える」をテーマに、パネリストとして4名の会員と司会者によるパネディスカッションを行った。前半は、昨年から引き続くコロナ禍で、事務職員として担った主な役割や苦勞した点、工夫したことなど、ざっくばらんにお話しいただいた。感染症という前例のない状況の中で、それぞれ職場での対話を大切にし、学校のニーズに合わせて必要な物を購入し、取組や対策を柔軟に行っている姿に、参加者の共感を得ていた。

後半の「事務をつかさどる」の部分では、学校現場に配置されている事務職員として、教員を始め他職種との連携を大切にし、主体的に学校運営に関わり、日々重要な役割を担っている様子が交流された。



## IV 部会の成果と課題

### 1. 成果

#### 【石狩】

学校予算を学校事情に応じて学校間で増減できる「配分調整」可能な項目が増えて、効率的な予算運用が可能となった。事務局が中心となって、各校の実施状況を集約・交流することで、計画的に行うことが共通理解された。予算要望書の中では、「学力テストや教材購入等、保護者負担軽減のための予算措置」等6つの重点項目を設定し要望活動を推進した。「学校事務をつかさどる」の共有化をはかろうというテーマで、実践発表をもとに交流を行った。

#### 【当別・新篠津】

学校徴収金調査を行い、公費化取り組み振り返りシートを活用して交流を行った。保護者負担軽減の取組における職場での教員・他職種との関わりについても交流を行った。

「財政財務活動による学校運営への参画」にあたるのか、「学校間連携を活用した職務の捉え返し」となっているか確認した取組が行われた。

#### 【江別】

保護者負担軽減の取組として、「学校徴収金（学年教材費等）の公費化」「学校補助金（バス費用負担の実態）各校の財政基盤強化の取組として「印刷関連費の効率化の工夫」「その他の予算執行上の工夫」などの調査を行い、結果分析と意見交流を行った。学校補助金におけるバス費用の負担については、総額と公費補助額、保護者負担額の実態などについても調査を行い、教育予算と一体化した視点で取組が行われた。

#### 【北広島】

各校で学校徴収金調査、修学旅行、宿泊学習、校外学習調査等を行った。各調査の市内小中学校の傾向や分析を行い、市内各校の結果一覧表の作成を行った。調査した資料を事務だよりなどで「見える化」して教職員にも興味・関心をもってもらえるような取組が行われた。学習会を開催し、「共同学校事務室と学校間連携会議について」学習を深める取組が行われた。

#### 【恵庭】

保護者負担の公費化（軽減）実現のための財源確保として、定額制プリンター活用に関わる実態交流・分析や高額備品等に関わる調査を行い市内各校の結果一覧表の作成を行った。大型機器や高額備品等については、連携会議が市教委に更新計画を立案するなどの取組が行われた。また、新型コロナウイルス感染症に関わるアンケートと職務に関するアンケートの実施を行った。個人レポートでは、今日的な事務職員の制度変更について学習を深める取組が行われた。

#### 【千歳】

「保護者負担の公費化」について継続的に調査を行い、データの蓄積と見える化によって組織全体で考える体制をとっている。「公費化する推奨教材・消耗品リスト」の活用により、自校と他校との状況を比較して各校で公費化に向けた取組も行われている。学校配当予算の保護者への公開や、徴収金に関わって保護者向け事務だより等で継続された取組が行われている。

今年度の研究・実践では、「事務をつかさどる」ということを学校運営に参画するという観点で捉えていくために「学校間連携における財政財務活動の取組」と「学校間連携を活用した職務の捉え返し」の2つの柱とした。

「学校間連携における財政財務活動の取組」として、各市町村では調査活動が継続された。各種調査結果は、「一覧表」や「振り返りシート」、「教職員向け事務だより」などによって見える化され、各校の事務職員が一人一人工夫しながら、保護者負担軽減に向けて取組を進めている状況が報告された。

また、調査結果を活用して予算要望委員会への働きかけを行うなど、学校間連携の取組も報告された。「配分調整」や「組み替え」、「大型機器」や「高額備品」の整備など、市町村における課題には、学校間連携によって課題解決につながっている取組も報告されている。各市町村では、調査によるデータの蓄積とそのデータの活用によって、保護者負担軽減に向けた取組が、視点を変えながら多数行われていることが成果となった。

「学校間連携を活用した職務の捉え返し」として、昨年「学校事務に関する調査」を行い、その調査結果を今年度公表した。各市町村での取組として、「学校事務をつかさどる」の共有化をはかろうというテーマで実践発表をもとに交流を行ったものや個人レポートを基に学習を行ったもの、会員アンケートによる市内各校の実態把握などの取組があった。また、2つの柱を取り入れながら1つ1つの事例をあげていき、「参画にあたるのか」「有機的連携をはかれるのか」を確認していく取組も報告されている。

第二次研究協議会や石狩管内事務職員研修会などの講演やパネルディスカッション等を通して、学校運営に参画している事例が紹介された。これらの研修や研究協議を通して、今まで私たち事務職員が日々やってきたことやこれからやろうとしている「つかさどる」の姿が見えてきたのではないかと思えるようになってきた。「事務をつかさどる」ということが、学校事務職員が主体的に関わりながら、企画・提案を行うこと、そして他者（他職種、他機関、地域等）との連携をはかりながら取り組んでいくことではないか、という大まかな共通理解に立てたのではないかというのが、成果として挙げられる。

## 2. 課題

このように、今年度の私たちの研究は、「事務をつかさどる」とは、どのようなことかを探る方策の一つとして、従来の「1. 学校間連携における財政財務活動の取組」に「学校運営への参画」の観点を加味した研究と、「2. 学校間連携を活用した職務の捉え返し」として意識調査の交流等による職務の見つめ直しという、2つの柱で取り組んできた。

財政財務活動については、従来からの保護者負担の公費化の取組を行いながら、その中で既に「学校運営への参画」といえる取組はなかったか、さらに工夫を加えることでそこにつながる可能性はないか、といった検証と交流を進めた。コロナ禍で新たな取組がなかなか進められない中、今までの実践の積み上げにより着実に成果を上げることが「学校運営への参画」につながり、結果的に「事務をつかさどる」にもつながるものと押さえ、今後も実践を続ける必要がある。

もう一つの柱である職務の捉え返しでは、昨年度に実施した学校事務に関する意識調査を基にした交流や研修会等により、多くの考え方に触れる機会とすることができた。「事務をつかさどる」ということはどういうことなのかを再認識及び共通理解するためにも、今後も研究を進める必要がある。

今年度の取組によって、「事務をつかさどる」ということの大まかな共通理解に立つことができたというのは前述の通りである。しかし、これまで「事務に従事する」という中で進めてきた取組は、ともすれば属人的になりがちであり、やるかやらないかも個人に委ねられたものであった。私たちの中で「事務をつかさどる」ということが、ある程度共通理解に立ちつつあるといいつつも、事務職員全体のものとなっているかという疑問があり、この共通理解を事務職員全体のものとしていくことが、今後の課題である。

また、私たちが「事務をつかさどる」ということを確立させていき、その「学校事務をつかさどる」ということが、他職種や広い立場の人たちに共通認識されるようにしなくてはなりません。そのためには、私たちが考えている「事務をつかさどる」ということを、事務職員の側からしっかりと説明できること、そして実践していくことが今後大事になってくると考える。

学校の内外で「事務をつかさどる」ということについて、認知・定着をはかるためには、財政財務活動を含め、私たちがしっかりとした日常実践を積み重ねていくことが重要である。また、「事務をつかさどる」ということを説明していくために、会議での提案事項についてしっかりとした流れをつくっていくことも大事ですし、学校運営計画の中で「事務をつかさどる」ということの記述をすることの必要性も考えられる。このように、「事務をつかさどる」を念頭に置いた学校事務は、私たち事務職員だけで完結するものではなく、他者との連携、協力・協働をなくしては成しえない。その上で、教育という大きな柱のもとで『学校事務をつかさどる』を確立させていく必要があると考える。

(文責 外崎 かおり・小村 秀喜・塚原 弘士)